

令和 4 年 6 月 20 日現在

機関番号：32645

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K08992

研究課題名(和文) 感染と関連した腎疾患における補体を介した腎組織障害機序とその指標の解明

研究課題名(英文) Elucidation for the mechanism of kidney injury and the biomarker related with complement activation in infection associated kidney diseases

研究代表者

尾田 高志 (Oda, Takashi)

東京医科大学・医学部・教授

研究者番号：90531187

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：ANCA関連糸球体腎炎(AAGN)患者を対象として、血清と腎生検組織を解析した。血清中で免疫複合体(CIC)が65%に陽性で、CIC陽性例は全例ANCA抗原親和性が高親和性だった。血清中C5aやC5b-9はAAGN患者血清中で健康者に比較し有意に上昇しており、CICレベルとC5aやC5b-9レベルとの間に有意な正の相関を認めた。腎生検では、C4d、C5、C5b-9がほぼ全例で糸球体内に類似した分布で沈着していた。C4dが陽性な一方レクチン経路関連分子はほぼ陰性で、血清での結果と合わせ、免疫複合体により古典経路を介した補体活性化が起こり、終末経路まで進んで腎障害に関与している可能性が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

AAGN患者の腎生検組織と血清を用いた検討で、AAGN患者では免疫複合体が形成され、これが古典経路を介した補体の活性化を惹起し腎障害の発症・進展に関与していることを明らかにした。エクリズマブ(C5)以外にもベグセタコパン(C3)、アバコパン(C5aR)、イブタコパン(factor B)、ダニコパン(factor D)など、各種の補体標的制御薬が次々と開発され、実用化されつつある現状を考えると、本研究のような補体と関連した腎障害機序の解明はすなわち新しい治療法の確立に直結する可能性があり、その意義は重大と考える。

研究成果の概要(英文)：Serum and renal biopsy tissues of ANCA associated glomerulonephritis (AAGN) were evaluated. CICs assessed by the monoclonal rheumatoid factor assay were positive in 65% of AAGN patients. Affinities of ANCAs were evaluated by a competitive inhibition method with ELISA, and all CIC-positive patients revealed to belong to the high-affinity group. Serum C5a and C5b-9, assessed by ELISA, were significantly increased in AAGN patients, and these levels significantly correlated with CIC levels. Immunofluorescence staining on renal tissue sections for complement components, such as C3, C5, C4d, C5b-9, factor Bb, mannan-binding lectin serine peptidase (MASP)-1, -2, and mannan-binding lectin (MBL), revealed glomerular deposition of C4d, C5, and C5b-9 in similar distributions in AAGN patients, whereas the deposition of MASP-1, -2, MBL, and factor Bb were minimal. These results suggest the involvement of immune-complex induced complement activation through the classical pathway in the pathogenesis of AAGN.

研究分野：腎臓内科

キーワード：補体 古典経路 副経路 レクチン経路 免疫複合体 ANCA関連腎炎 抗体親和性

様式 C-19、F-19-1、Z-19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

補体系は、自然免疫の主要な構成要素として感染防御に重要な役割を果たすが、その過剰な活性化は各種の炎症性疾患において組織障害性に働くことが知られている。このような補体の異常な活性化に伴う疾患において、腎臓は頻度の高い主要な標的臓器である。実際、感染関連糸球体腎炎、膜性増殖性糸球体腎炎、ループス腎炎などの腎疾患において血清補体価が低下することは古くから知られており、最近では非典型溶血性尿毒症症候群における抗 C5 抗体 (エクリズマブ) の劇的な治療効果から腎障害における補体の重要性が強く再認識されている。私たちは細菌由来の腎炎惹起性蛋白が直接補体を活性化しうること、補体活性化を伴う腎炎の代表である C3 腎症に感染関連で発症する一群が存在することを報告してきた。さらに、ANCA という自己抗体の存在から、自己免疫機序が重視されている ANCA 関連腎炎 (AAGN)・血管炎にも、感染を誘因として発症する症例群の存在が報告されてきた。これら知見は感染と関連した各種腎疾患の発症・進展における補体活性化の関与を示唆するが、補体による腎障害機序の詳細は不明な部分が多く、評価に有用な指標も明らかではない。中でもヒト AAGN では血清補体価が正常で、一般的な組織染色でも補体成分はほぼ陰性 (pauci-immune) であるため、補体の関与は注目されてこなかった。補体系が感染防御に大きく関与していることを考慮すると、治療としての補体の制御は限定的・特異的な方法が求められる。このような治療法として、先に触れた補体経路の C5 以降を制御するエクリズマブはすでに国内でも実用化され広く使用されており、C5 以降に加えて C3 の活性化産物も抑制する可溶性 CR1 は、米国において実用化されつつある。さらに最近では、CTRP6 という蛋白が C3 の B 因子への結合を抑制する内因性の補体制御因子であることが報告され、C3 活性化のより上流での制御も実用化されてくる可能性がある。このような補体活性化の特異的制御薬の開発・普及に相まって、補体系の治療ターゲットとしての可能性はますます注目されてきている。しかしながら、ヒト腎疾患における補体を介した腎組織障害機序の詳細や、補体制御治療への反応性を予測する指標などは未だ不明な部分が多い。

2. 研究の目的

本研究の目的は、感染と関連した各種腎疾患における尿中・血中・組織中の補体系を総合的に解析することにより補体を介した腎障害機序を明らかにし、補体による腎障害をリアルタイムに把握するのに最適な検査指標を解明し治療に役立てることにあるが、検討可能な試料の数の側面と、これまで解析が進められていない現状を考え、AAGN を対象疾患としてその発症・進展における補体活性化の関与を明らかにし、補体の主な活性化経路を解析することで、AAGN の病態把握に有用なバイオマーカーや治療のターゲットを明らかにすることにある。

3. 研究の方法

(1) 対象

当初は感染関連糸球体腎炎を対象疾患として解析を進める予定であったが、保存されている感染関連糸球体腎炎の腎生検凍結組織を調べたところ非常に限られており解析できる十分なサンプル数に及ばないことが判明した。そこで対象疾患を ANCA 関連腎炎に変更した。2010 年 6 月 1 日～2020 年 5 月 31 日の間に腎生検を実施し、MPO-ANCA 陽性 AAGN と診断された患者のうち、検査目的で採取された生検組織、血清などの残検体の研究用使用の同意を得られた患者で、下記の除外基準に当たらない患者 20 名を対象にした。血清の解析に関しては 10 例の健常ボランティアの血清をコントロールとして評価した。

除外基準

- ・抗糸球体基底膜病が疑われる患者
- ・蛍光抗体法で免疫グロブリンや補体が 1+以上の強度で陽性で、他の特異性慢性糸球体腎炎やループス腎炎などの合併が疑われる患者
- ・腎生検組織の光顕所見で半月体の形成が全くみられない患者

(2) 方法

血清学的解析：

ルーチン検査...C3、C4

特殊検査...免疫複合体 (CIC) (モノクローナル RF 結合アッセイ)、C5a (ELISA 法)、sC5b-9 (ELISA 法)、MPO-ANCA の抗原親和性 (競合抑制試験で高親和性と低親和性に分類)

腎生検組織解析：蛍光抗体法で以下の分子の組織沈着を評価

ルーチン検査...IgG, A, M, C3c, C1q (直接法)

特殊検査...C4d (古典経路+レクチン経路 間接法)、MBL, MASP-1, MASP-2 (レクチン経路 間接法)、Factor Bb neo (副経路 間接法)、total C3 (共通経路 兎 polyclonal 抗体を蛍光標識

し直接法) C5[共通経路 ヒト化 monoclonal 抗体(エクリズマブ)を蛍光標識し直接法]、C5b-9 (共通経路 間接法)

上記評価項目と臨床・組織所見との関連性を統計学的に評価・検討

4. 研究成果

ルーチンの血清検査で C3 の異常低値を示したのは 20 例中 1 例のみ、C4 の異常低値は 3 例のみでかつ低下症例もごく軽度の低下にとどまった。一方、血清中の CIC は 20 例中 13 例(65%)で陽性であった。興味深いことに CIC 陽性の患者は全例が MPO-ANCA の抗原親和性で高親和性のパターンを示す症例であった(図 1, $p=0.011$)。AAGN 患者血清中での補体活性化の存在は、ELISA で検討した C5a や sC5b-9 の健常コントロールに比較した有意な上昇により確認され(C5a: 45.9 vs 13.2, $P < 0.001$; C5b-9: 6835.9 vs 1045.7, $P < 0.001$)、さらに血清中の CIC レベルと ELISA による C5a レベル($R^2=0.39$, $p<0.001$)や sC5b-9 レベル($R^2=0.53$, $p<0.0001$)との間には有意な正の相関を認めた(図 2)。一方で古典経路を介した補体活性化に伴って解析結果の数値が低下する Weislab の古典経路補体活性化アッセイキットの結果と CIC レベルの間には有意な負の相関関係が見られた(図 3, $P < 0.05$)。これらの血清中の補体関連分子の解析結果、うなわち CIC のレベルと血清中の補体活性化最終産物である C5a や sC5b-9 との間に強い正の相関関係がみられたことから、CIC を介した補体の活性化、つまり古典経路による補体活性化が最終共通経路まで動いていることが想定された。

腎生検組織に関しては、ルーチンで実施している IgG, A, M, C3c, C1q などの蛍光染色は、AAGN の診断基準にある通り陽性頻度が低く、染色強度も弱かったが、C4d, C5, C5b-9 はほぼ全例で糸球体内に強く類似したパターンで陽性であった(図 4)。C4d が陽性である一方、レクチン経路の活性化を示唆する MBL, MASP-1, MASP-2 はほぼ全てのサンプルで陰性であり、おそらく免疫複合体の存在により古典経路を介した補体活性化が起こり、C5, C5b-9 の強い陽性所見から、その活性化が終末経路まで進んで腎組織障害に関与している可能性が示唆され、血清での解析結果を支持する所見であった。

図 1. CIC の ANCA 親和性の違いによる陽性頻度

	高親和性	低親和性
CIC 陽性	13	0
CIC 陰性	3	4

図 2. CIC と血清中 C5a, C5b-9 レベルとの相関

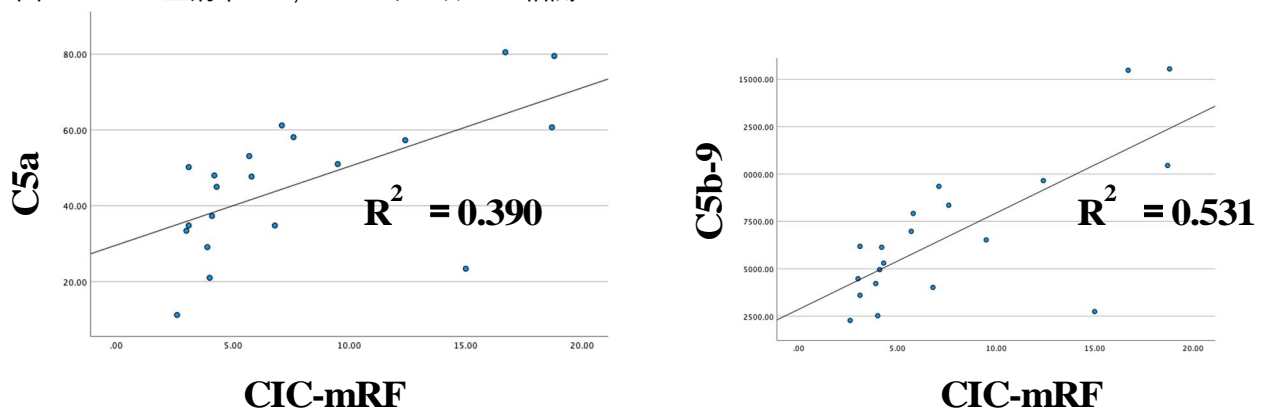


図 3. CIC と血清 Wieslab Classical Pathway アッセイ結果との相関

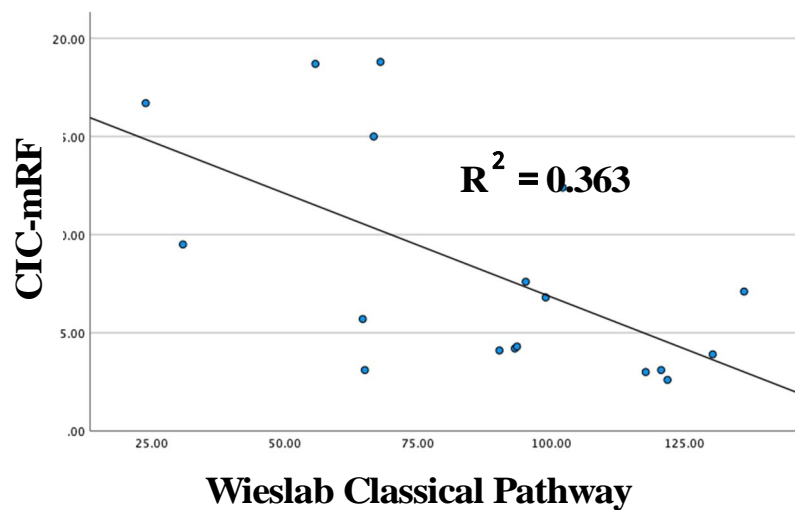
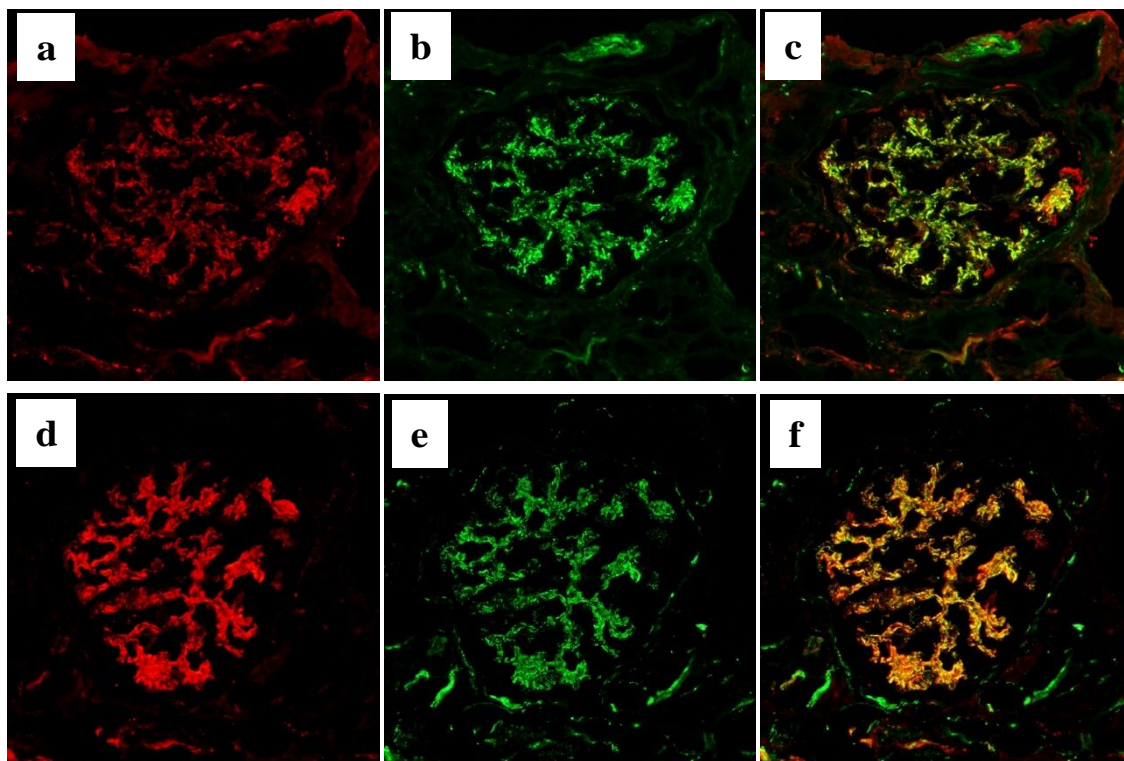


図 4. 蛍光抗体 2 重染色像 :

直接法 total C3(a, Alexa Fluor 594:赤), C5 (b, Alexa Fluor 488: 緑), merged image (c);
間接法 C4d (d, Alexa Fluor 594:赤), C5b-9 (e, Alexa Fluor 488: 緑), merged image (f)



5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計56件（うち査読付論文 40件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 31件）

1. 著者名 Kojima Tadasu, Inoue Dan, Wajima Takeaki, Uchida Takahiro, Yamada Muneharu, Ohsawa Isao, Oda Takashi	4. 巻 44
2. 論文標題 Circulating immune-complexes and complement activation through the classical pathway in myeloperoxidase-ANCA-associated glomerulonephritis	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Renal Failure	6. 最初と最後の頁 714 ~ 723
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/0886022X.2022.2068445	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Inoue Dan, Oda Takashi, Iwama Sachiko, Hoshino Takahiko, Mukae Mitsuya, Sakai Takashi, Kojima Aki, Uchida Takahiro, Kojima Tadasu, Sugisaki Kentaro, Tomiyasu Tomohiro, Yoshikawa Noriko, Yamada Muneharu	4. 巻 23
2. 論文標題 Thrombotic microangiopathy with transiently positive direct Coombs test in an adult with poststreptococcal acute glomerulonephritis: a case report	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 BMC Nephrology	6. 最初と最後の頁 56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12882-022-02684-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kanazawa Nobuhiro, Iyoda Masayuki, Hayashi Junichi, Honda Kazuho, Oda Takashi, Honda Hirokazu	4. 巻 72
2. 論文標題 A case of acute poststreptococcal glomerulonephritis complicated by interstitial nephritis related to streptococcal pyrogenic exotoxin B	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Pathology International	6. 最初と最後の頁 200 ~ 206
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/pin.13203	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kamijo Natsumi, Mii Akiko, Aratani Sae, Kashiwagi Tetsuya, Oda Takashi, Shimizu Akira, Sakai Yukinao	4. 巻 -
2. 論文標題 A Case of Anti-neutrophil Cytoplasmic Antibody-associated Vasculitis Superimposed on Post-streptococcal Acute Glomerulonephritis	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Internal Medicine	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2169/internalmedicine.8690-21	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Okumura Motohiro, Sugihara Shinnosuke, Seki Kurumi, Nagaoka Kanako, Okawa Naoki, Ebihara Masayuki, Inoue Takahiro, Fukuda Junko, Ohara Mamiko, Imasawa Toshiyuki, Kitamura Hiroshi, Oda Takashi, Suzuki Tomo	4. 巻 61
2. 論文標題 Use of Immunosuppressive Therapy in the Treatment of IgA-dominant Infection-related Glomerulonephritis	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Internal Medicine	6. 最初と最後の頁 697 ~ 701
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2169/internalmedicine.7404-21	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Uchida Takahiro, Seki Shuhji, Oda Takashi	4. 巻 23
2. 論文標題 Infections, Reactions of Natural Killer T Cells and Natural Killer Cells, and Kidney Injury	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Journal of Molecular Sciences	6. 最初と最後の頁 479 ~ 479
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijms23010479	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Komaki Kazumi, Shiotsu Yayoi, Adachi Hiroya, Urata Noriko, Hara Masayuki, Nakayama Mayuka, Kusaba Tetsuro, Masuzawa Naoko, Konishi Eiichi, Oda Takashi, Tamagaki Keiichi	4. 巻 11
2. 論文標題 Nephritis-associated plasmin receptor (NAP1r)-positive glomerulonephritis in a case of ANCA-negative small vessel vasculitis	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 CEN Case Reports	6. 最初と最後の頁 90 ~ 96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s13730-021-00635-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hirata Momoko, Miyazawa Haruhisa, Morino Junki, Kaneko Shohei, Minato Saori, Katsunori Yanai, Ishii Hiroki, Kitano Taisuke, Ito Kiyonori, Hirai Keiji, Oda Takashi, Shimizu Akira, Ueda Yoshihiko, Morishita Yoshiyuki	4. 巻 100
2. 論文標題 A case report of PR-3-ANCA-positive glomerulonephritis with histological features of GPA associated with infectious endocarditis	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Medicine	6. 最初と最後の頁 e26905 ~ e26905
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1097/MD.0000000000026905	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yamada Muneharu, Iwamoto Hitoshi, Konno Osamu, Kihara Yu, Akashi Isao, Okihara Masaaki, Oda Takashi	4. 巻 100
2. 論文標題 Pelvic arteriovenous malformation in a kidney transplant recipient	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Kidney International	6. 最初と最後の頁 246 ~ 246
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.kint.2020.12.003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yamada Muneharu, Hirai Yohei, Inoue Dan, Komatsu Shuhei, Uchida Takahiro, Kojima Tadasu, Tomiyasu Tomohiro, Yoshikawa Noriko, Oda Takashi	4. 巻 -
2. 論文標題 Increased expression of epimorphin in a peritoneal fibrosis mouse model	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Peritoneal Dialysis International: Journal of the International Society for Peritoneal Dialysis	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/08968608211051572	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nagai Marie, Uchida Takahiro, Yamada Muneharu, Komatsu Shuuhei, Ota Kohei, Mukae Mitsuya, Iwamoto Hitoshi, Hirano Hiroshi, Karube Miho, Kaname Shinya, Oda Takashi	4. 巻 8
2. 論文標題 TAFRO Syndrome in a Kidney Transplant Recipient That Was Diagnosed on Autopsy: A Case Report	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Frontiers in Medicine	6. 最初と最後の頁 747678
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fmed.2021.747678	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Usui Joichi, Kawashima Soko, Sada Ken-Ei, Oda Takashi, et al., Committee of Clinical Practical Guideline for Rapidly Progressive Glomerulonephritis 2020	4. 巻 25
2. 論文標題 A digest of the evidence-based Clinical Practice Guideline for Rapidly Progressive Glomerulonephritis 2020	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Clinical and Experimental Nephrology	6. 最初と最後の頁 1286 ~ 1291
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10157-021-02096-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Asano Marina, Oda Takashi, Mizuno Masashi	4. 巻 11
2. 論文標題 A case of C3 glomerulopathy with nephritis-associated plasmin receptor positivity without a history of streptococcal infection	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 CEN Case Reports	6. 最初と最後の頁 259 ~ 264
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s13730-021-00662-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Uchida Takahiro, Oda Takashi, Inoue Dan, Komatsu Shuhei, Kojima Tadasu, Tomiyasu Tomohiro, Yoshikawa Noriko, Yamada Muneharu	4. 巻 61
2. 論文標題 Exposure of Thomsen-Friedenreich Antigen on the Renal Tubules of a Patient with $C3$ Capnocytophaga Infection-induced Acute Kidney Injury	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Internal Medicine	6. 最初と最後の頁 1021 ~ 1026
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2169/internalmedicine.7809-21	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hirose Go, Uchida Takahiro, Kojima Aki, Sugisaki Kentaro, Yamada Muneharu, Nagase Yoshihiro, Takaki Takashi, Nagahama Kiyotaka, Oda Takashi	4. 巻 8
2. 論文標題 Membranous Nephropathy With Monoclonal IgM Lambda Deposits in a Patient With IgM Monoclonal Gammopathy: A Case Report	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Frontiers in Medicine	6. 最初と最後の頁 608741
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fmed.2021.608741	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Uchida Takahiro, Komatsu Shuuhei, Sakai Takashi, Kojima Aki, Iwama Sachiko, Sugisaki Kentaro, Oda Takashi	4. 巻 10
2. 論文標題 Complete remission of DnaJ homolog subfamily B member 9-positive fibrillary glomerulonephritis following steroid monotherapy in an elderly Japanese woman	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 CEN Case Reports	6. 最初と最後の頁 442 ~ 447
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s13730-021-00585-y	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Onishi Ayano, Mizumoto Aya, Mitsumoto Kensuke, Katsunuma Rinko, Shingu Takafumi, Oda Takashi, Uzu Takashi	4. 巻 10
2. 論文標題 A man with immunoglobulin A nephropathy complicated by infection-related glomerulonephritis with glomerular depositions of nephritis-associated plasmin receptor	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 CEN Case Reports	6. 最初と最後の頁 490 ~ 493
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s13730-021-00597-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小島 亜希, 尾田 高志	4. 巻 14
2. 論文標題 溶連菌感染後急性糸球体腎炎	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 腎臓内科	6. 最初と最後の頁 653-658
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小島 糾, 尾田 高志	4. 巻 91
2. 論文標題 RPGNと感染関連糸球体腎炎	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 腎と透析	6. 最初と最後の頁 455-458
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田 宗治, 尾田 高志	4. 巻 14
2. 論文標題 IRGN(感染関連糸球体腎炎) 治療すべき、治療すべきでない議論	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 腎臓内科	6. 最初と最後の頁 323-328
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上 暖, 尾田 高志	4. 巻 91
2. 論文標題 慢性腎臓病・透析合併症 消化器症状 味覚異常 亜鉛含有薬	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 腎と透析	6. 最初と最後の頁 494-497
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内田 貴大, 尾田 高志	4. 巻 128
2. 論文標題 感染症は腎機能障害の原因となる	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 内科	6. 最初と最後の頁 725-728
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中林 巖, 廣瀬 剛, 富安 朋宏, 川上 幸治, 柴 隆大, 小林 稔秀, 尾田 高志	4. 巻 70
2. 論文標題 血液透析患者におけるフェニル硫酸の蓄積と大赤血球症との関連	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 新薬と臨牀	6. 最初と最後の頁 1216-1227
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Uchida T, Oda T.	4. 巻 21(7)
2. 論文標題 Glomerular Deposition of Nephritis-Associated Plasmin Receptor (NAP1r) and Related Plasmin Activity: Key Diagnostic Biomarkers of Bacterial Infection-related Glomerulonephritis.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Int J Mol Sci.	6. 最初と最後の頁 2595
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijms21072595.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Noda S, Mandai S, Oda T, Shinoto T, Sato H, Sato K, Hirokawa K, Noda Y, Uchida S.	4. 巻 99(25)
2. 論文標題 Asymptomatic sinusitis as an origin of infection-related glomerulonephritis manifesting steroid-resistant nephrotic syndrome: A case report.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Medicine (Baltimore).	6. 最初と最後の頁 e20572
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1097/MD.0000000000020572.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Oda T, Yoshizawa N.	4. 巻 22(2)
2. 論文標題 Factors Affecting the Progression of Infection-Related Glomerulonephritis to Chronic Kidney Disease.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Int J Mol Sci.	6. 最初と最後の頁 905
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijms22020905.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Inoue D, Oda T, Iwama S, Uchida T, Kojima T, Tomiyasu T, Yoshikawa N, Yamada M, Okihara M, Akashi I, Kihara Y, Konno O, Iwase M, Iwamoto H.	4. 巻 23(1)
2. 論文標題 Development of pure red cell aplasia by transmission and persistent infection of parvovirus B19 through a kidney allograft.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Transpl Infect Dis.	6. 最初と最後の頁 e13462.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/tid.13462.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kageyama A, Fukushima H, Usui J, Iwabuchi A, Suzuki R, Masumoto K, Oda T, Nagata M, Takada H.	4. 巻 10(1)
2. 論文標題 Poststreptococcal acute glomerulonephritis in a girl with renal cell carcinoma: possible pathophysiological association.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 CEN Case Rep.	6. 最初と最後の頁 139-144.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s13730-020-00526-1.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yamashiro A, Yamada M, Kihara Y, Konno O, Iwamoto H, Oda T.	4. 巻 43(1)
2. 論文標題 Sustained remission of rapidly progressive post-transplant immunoglobulin A nephropathy by treatment with tonsillectomy following steroid pulse therapy: a case report.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Ren Fail.	6. 最初と最後の頁 16-19.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/0886022X.2020.1851257.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Han W, Suzuki T, Watanabe S, Nakata M, Ichikawa D, Koike J, Oda T, Suzuki H, Suzuki Y, Shibagaki Y	4. 巻 100(5)
2. 論文標題 Galactose-deficient IgA1 and nephritis-associated plasmin receptors as markers for IgA-dominant infection-related glomerulonephritis: A case report.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Medicine (Baltimore).	6. 最初と最後の頁 e24460.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1097/MD.00000000000024460.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Okihara Masaaki, Takeuchi Hironori, Kikuchi Yukiko, Akashi Isao, Kihara Yu, Konno Osamu, Iwamoto Hitoshi, Oda Takashi, Tanaka Sachiko, Unezaki Sakae, Hirano Toshihiko	4. 巻 10
2. 論文標題 Individual Lymphocyte Sensitivity to Steroids as a Reliable Biomarker for Clinical Outcome after Steroid Withdrawal in Japanese Renal Transplantation	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Clinical Medicine	6. 最初と最後の頁 1670 ~ 1670
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/jcm10081670	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Okihara M, Takeuchi H, Akiyama S, Yoshinaga R, Osato S, Akashi I, Kihara Y, Konno O, Iwamoto H, Oda T, Tanaka S, Unezaki S, Hirano T.	4. 巻 26
2. 論文標題 Pharmacodynamic Drug-Drug Interaction on Human Peripheral Blood Mononuclear Cells Between Everolimus and Tacrolimus at the Therapeutic Concentration Range in Renal Transplantation.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Ann Transplant.	6. 最初と最後の頁 e928817.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.12659/AOT.928817.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Matsunaga K, Tsurukiri J, Kato T, Suenaga H, Otake N, Numata J, Kojima T, Oda T.	4. 巻 4
2. 論文標題 Rupture of Renal Artery Aneurysm in a Patient with Granulomatosis with Polyangiitis	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 JMA Journal	6. 最初と最後の頁 434 ~ 438
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.31662/jmaj.2021-0027	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 尾田 高志	4. 巻 109
2. 論文標題 感染症と腎炎.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本内科学会雑誌	6. 最初と最後の頁 903-909
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武政 洋一, 遠藤 翔太, 宮野 洋希, 梅田 千里, 西野 智彦, 仲川 真由, 渡邊 佳孝, 尾田 高志, 藤永 周一郎.	4. 巻 40
2. 論文標題 マイコプラズマ肺炎に合併した重症感染関連糸球体腎炎の6歳男児例.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本小児腎不全学会雑誌	6. 最初と最後の頁 252-256
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小島 糾, 尾田 高志.	4. 巻 89
2. 論文標題 血液浄化療法 免疫吸着療法の適応.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 腎と透析	6. 最初と最後の頁 727-729
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田 宗治, 尾田 高志.	4. 巻 109
2. 論文標題 腎機能の臨床検査.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本内科学会雑誌	6. 最初と最後の頁 2466-2470
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yano K, Suzuki H, Oda T, Ueda Y, Tsukamoto T, Muso E	4. 巻 20
2. 論文標題 Crescentic poststreptococcal acute glomerulonephritis accompanied by small vessel vasculitis: case report of an elderly male.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 BMC Nephrol.	6. 最初と最後の頁 471- 476
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12882-019-1663-9.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hotta O, Oda T:	4. 巻 67
2. 論文標題 The epipharynx-kidney axis triggers glomerular vasculitis in immunoglobulin A nephropathy.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Immunol Res.	6. 最初と最後の頁 304-309.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s12026-019-09099-3.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hirano D, Oda T, Ito A, Yamada A, Kakegawa D, Miwa S, Umeda C, Takemasa Y, Tokunaga A, Wajima T, Nakaminami H, Noguchi N, Ida H	4. 巻 92
2. 論文標題 Glyceraldehyde-3-phosphate dehydrogenase of Mycoplasma pneumoniae induces infection-related glomerulonephritis.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Clin Nephrol.	6. 最初と最後の頁 263-272
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5414/CN109786.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hotta O, Tanaka A, Oda T	4. 巻 18
2. 論文標題 Chronic epipharyngitis: A missing background of IgA nephropathy.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Autoimmun Rev.	6. 最初と最後の頁 835-836.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.autrev.2019.06.002.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Uchida T, Ito S, Kumagai H, Oda T, Nakashima H, Seki S	4. 巻 20
2. 論文標題 Roles of Natural Killer T Cells and Natural Killer Cells in Kidney Injury.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Int J Mol Sci.	6. 最初と最後の頁 E2487-2499
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijms20102487.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 尾田高志	4. 巻 4981
2. 論文標題 治療法の再整理とアップデートのために 専門家による私の治療 IgA腎症.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本医事新報	6. 最初と最後の頁 46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 尾田高志	4. 巻 86
2. 論文標題 感染症 溶連菌感染症・腎臓専門医の視点より	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 腎と透析	6. 最初と最後の頁 365-368
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kojima T, Hirose G, Komatsu S, Oshima T, Sugisaki K, Tomiyasu T, Yoshikawa N, Yamada M, Oda T	4. 巻 20 (1)
2. 論文標題 Development of anti-glomerular basement membrane glomerulonephritis during the course of IgA nephropathy	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 BMC Nephrology	6. 最初と最後の頁 25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12882-019-1207-3.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kohatsu K, Suzuki T, Yazawa M, Yahagi K, Ichikawa D, Koike J, Oda T, Shibagaki Y.	4. 巻 4 (2)
2. 論文標題 Granulomatosis With Polyangiitis Induced by Infection.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Kidney International Reports	6. 最初と最後の頁 341-345
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ekir.2018.09.010.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ito S, Uchida T, Oshima N, Oda T, Kumagai H	4. 巻 19 (1)
2. 論文標題 Development of membranoproliferative glomerulonephritis-like glomerulopathy in a patient with neutrophilia resulting from endogenous granulocyte-colony stimulating factor overproduction	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 BMC Nephrology	6. 最初と最後の頁 251
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12882-018-1049-4.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Uchida T, Oda T, Matsubara H, Watanabe A, Takechi H, Oshima N, Sakurai Y, Kumagai H.	4. 巻 39
2. 論文標題 Renoprotective effects of a dipeptidyl peptidase 4 inhibitor in a mouse model of progressive renal fibrosis.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Ren Fail.	6. 最初と最後の頁 340, 349
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/0886022X.2017.1279553.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takehara E1, Mandai S, Shikuma S, Akita W, Chiga M, Mori T, Oda T, Kuwahara M, Uchida S.	4. 巻 56
2. 論文標題 Post-infectious Proliferative Glomerulonephritis with Monoclonal Immunoglobulin G Deposits Associated with Complement Factor H Mutation.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Intern Med.	6. 最初と最後の頁 811, 817
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2169/internalmedicine.56.7778.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Komaru Y, Ishioka K, Oda T, Ohtake T, Kobayashi S.	4. 巻 Epub ahead
2. 論文標題 Nephritis-associated plasmin receptor (NAP1r) positive glomerulonephritis caused by Aggregatibacter actinomycetemcomitans bacteremia.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Clin Nephrol.	6. 最初と最後の頁 Epub ahead
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5414/CN109173.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Okabe M, Takamura T, Tajiri A, Tsuboi N, Ishikawa M, Ogura M, Ohashi R, Oda T, Yokoo T.	4. 巻 Epub ahead
2. 論文標題 A case of infection-related glomerulonephritis with massive eosinophilic infiltration. Clin Nephrol.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Clin Nephrol.	6. 最初と最後の頁 Epub ahead
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5414/CN109415.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹内 裕紀, 市田 公美, 虎石 竜典, 岩本 整, 中村 有紀, 今野 理, 木原 優, 横山 卓剛, 池田 千絵, 奥山 清, 川口 崇, 河地 茂行, 尾田 高志, 平野 俊彦, 畝崎 榮	4. 巻 41
2. 論文標題 アザチオプリンとアロプリノールの併用は禁忌とすべきではないか 古くて新しい課題 - 新規尿酸合成阻害薬の比較および自験例から考える -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 痛風と核酸代謝	6. 最初と最後の頁 191, 198
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小松 秀平, 小島 糾, 吉川 憲子, 恩蔵 真弥, 藤井 理恵, 中山 晋吾, 富永 健太, 廣瀬 剛, 大島 泰斗, 杉崎 健太郎, 富安 朋宏, 須藤 泰代, 山田 宗治, 尾田 高志	4. 巻 83別冊
2. 論文標題 糖尿病合併の腹膜透析患者における導入時透析量と予後	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 腎と透析	6. 最初と最後の頁 64, 66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤井 理恵, 山田 宗治, 大島 泰斗, 小松 秀平, 廣瀬 剛, 小島 糾, 杉崎 健太郎, 富安 朋宏, 吉川 憲子, 吉田 雅治, 尾田 高志	4. 巻 59
2. 論文標題 小葉間動脈レベルの病変を伴うMPO-ANCA関連血管炎を合併した膜性腎症の1例	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本腎臓学会誌	6. 最初と最後の頁 1078, 1086
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田 宗治, 尾田 高志	4. 巻 83
2. 論文標題 【補体と腎疾患】 補体と腎疾患 溶連菌感染後急性糸球体腎炎	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 腎と透析	6. 最初と最後の頁 578, 582
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 尾田高志	4. 巻 82増刊
2. 論文標題 【腎生検・病理診断-臨床と病理の架け橋】 (第4章)腎生検病理診断の実際とトピックス Nephritis-associated plasmin receptor(NAP1r)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 腎と透析	6. 最初と最後の頁 354, 359
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計41件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 岩本 整, 沖原 正章, 赤司 勲, 木原 優, 山田 宗治, 尾田 高志.
2. 発表標題 HBs抗原陽性ドナーからHBs抗原陰性レシピエントへの腎移植の一例.
3. 学会等名 第54回 日本臨床腎移植学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 池田 千絵, 沖原 正章, 赤司 勲, 富安 朋宏, 木原 優, 今野 理, 岩本 整, 尾田 高志, 河地 茂行.
2. 発表標題 地域包括ケアの中での腎移植の現状 当院における腎移植患者を地域包括的に診る試み
3. 学会等名 第54回 日本臨床腎移植学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岡本 裕美, 安藤 亮一, 花房 規男, 酒井 謙, 菊地 勲, 要 伸也, 尾田 高志, 酒井 基広, 川崎 路浩, 安部 貴之
2. 発表標題 東京都における台風19号に関するアンケート調査報告.
3. 学会等名 第65回日本透析医学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 川崎 路浩, 安藤 亮一, 花房 規男, 酒井 謙, 菊地 勲, 要 伸也, 尾田 高志, 岡本 裕美, 安部 貴之.
2. 発表標題 Tokyo DIEMASによる情報共有 災害対策の第一歩.
3. 学会等名 第65回日本透析医学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 吉川 憲子, 小島 糾, 富安 朋宏, 廣瀬 剛, 小松 秀平, 井上 暖, 山田 宗治, 尾田 高志.
2. 発表標題 腹膜透析(PD)患者の経時的体組成変化.
3. 学会等名 第65回日本透析医学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 近藤 敦子, 小川 哲也, 岡本 裕美, 安部 貴之, 川崎 路浩, 酒井 基広, 菊地 勤, 尾田 高志, 要 伸也, 酒井 謙, 花房 規男, 安藤 亮一
2. 発表標題 江東5区+荒川区の透析施設を対象とした大規模水害の被害想定に関するアンケート調査.
3. 学会等名 第65回日本透析医学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 花房 規男, 菊地 勤, 川崎 路浩, 酒井 謙, 杉崎 弘章, 小川 哲也, 尾田 高志, 要 伸也, 田島 真人, 本田 浩一, 岡本 裕美, 安部 貴之, 今井 早良, 上田 聡美, 松岡 由美子, 吉盛 友子, 宿野部 武志, 戸倉 振一, 大坪 茂, 安藤 亮一.
2. 発表標題 東京都透析医会における災害時透析医療の取り組み.
3. 学会等名 第65回日本透析医学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 吉盛 友子, 今井 早良, 上田 聡美, 松岡 由美子, 花房 規男, 菊地 勤, 酒井 謙, 杉崎 弘章, 小川 哲也, 尾田 高志, 要 伸也, 田島 真人, 本田 浩一, 川崎 路浩, 岡本 裕美, 安部 貴之, 宿野部 武志, 戸倉 振一, 大坪 茂, 安藤 亮一.
2. 発表標題 東京都災害時透析看護の会の活動報告 東京都における透析看護の災害対策.
3. 学会等名 第65回日本透析医学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 沖原 正章, 赤司 勲, 木原 優, 今野 理, 岩本 整, 尾田 高志, 河地 茂行, 竹内 裕紀, 平野 俊彦.
2. 発表標題 PK/PD解析に基づく腎移植初期から維持期における併用療法免疫抑制力の推移.
3. 学会等名 日本移植学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 酒井 敬史, 内田 貴大, 井上 暖, 小島 糾, 杉崎 健太郎, 富安 朋宏, 山田 宗治, 吉川 憲子, 稲本 賢弘, 尾田 高志.
2. 発表標題 急性骨髄性白血病に対する非血縁者間骨髄移植後に発症した膜性腎症によるネフローゼ症候群の一例.
3. 学会等名 第50回日本腎臓学会東部会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 宮崎 令奈, 杉原 晋之助, 長岡 可楠子, 海老原 正行, 井上 貴博, 福田 純子, 小原 まみ子, 尾田 高志, 鈴木 智.
2. 発表標題 自然寛解した感染関連クリオグロブリン性糸球体腎炎と考えた1例.
3. 学会等名 第50回日本腎臓学会東部会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 永井 麻梨恵, 内田 貴大, 迎 光矢, 太田 耕平, 小松 秀平, 山田 宗治, 岩本 整, 平野 博嗣, 軽部 美穂, 尾田 高志.
2. 発表標題 生体腎移植後にTAFRO症候群の再発をきたしたと考えられた一例.
3. 学会等名 第50回日本腎臓学会東部会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 奥永 一成, 浅沼 克彦, 尾田 高志, 相澤 昌史, 李 記, 若林 華恵, 牧野 慎市, 井田 茉莉子.
2. 発表標題 臍切除後のMSSAによる腹腔内感染症治療中にネフローゼ症候群を発症した1例.
3. 学会等名 第50回日本腎臓学会東部会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 迎 光矢, 小島 糾, 永井 麻梨恵, 酒井 敬史, 井上 暖, 内田 貴大, 杉崎 健太郎, 富安 朋宏, 山田 宗治, 吉川 憲子, 尾田 高志.
2. 発表標題 Nephritis-associated plasmin receptor(NAP1r)の糸球体沈着を伴ったC3腎症の1例.
3. 学会等名 第50回日本腎臓学会東部会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 加藤 貴久, 尾田 高志, 井上 暖, 岩間 佐智子, 木原 優, 今野 理, 岩本 整.
2. 発表標題 移植腎尿管上皮へのパルボウイルス感染による免疫複合体性腎炎
3. 学会等名 第53回 日本臨床腎移植学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岩本 整, 沖原 正章, 赤司 勲, 木原 優, 山田 宗治, 尾田 高志, 今野 理.
2. 発表標題 当センターにおける糖尿病性腎症に対する腎移植の検討
3. 学会等名 第53回 日本臨床腎移植学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 虎石 竜典, 大山 勝宏, 竹内 裕紀, 平川 圭史, 堀 祐輔, 沖原 正章, 赤司 勲, 横山 卓剛, 木原 優, 今野 理, 中村 有紀, 河地 茂行, 尾田 高志, 岩本 整.
2. 発表標題 日米の医薬品副作用データベースを用いたエベロリムスの蛋白尿発現時期の検討.
3. 学会等名 第53回 日本移植学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 竹内 裕紀(東京薬科大学), 瀬沼 和己, 前原 陸哉, 沖原 正章, 横山 卓剛, 赤司 勲, 木原 優, 今野 理, 中村 有紀, 虎石 竜典, 平野 俊彦, 畝崎 榮, 河地 茂行, 尾田 高志, 岩本 整.
2. 発表標題 PK/PD解析に基づく腎移植初期から維持期における併用療法免疫抑制力の推移.
3. 学会等名 第53回 日本移植学会総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 足立 大也, 小牧 和美, 塩津 弥生, 浦田 倫子, 原 将之, 中山 雅由花, 草場 哲郎, 益澤 尚子, 小西 英一, 尾田 高志, 玉垣 圭一.
2. 発表標題 感染の関与が示唆されたANCA陰性顕微鏡的多発血管炎の1例.
3. 学会等名 第49回日本腎臓学会西部会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂下 祥太, 池上 怜花, 小林 伸暉, 正田 若菜, 久山 環, 尾田 高志, 安藤 亮一.
2. 発表標題 溶連菌感染後急性糸球体腎炎との鑑別が問題となるもIgA血管炎と診断した一例.
3. 学会等名 第49回 日本腎臓学会東部会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小松 秀平, 酒井 敬史, 小島 亜希, 大島 泰斗, 小島 糾, 杉崎 健太郎, 富安 朋宏, 山田 宗治, 吉川 憲子, 尾田 高志.
2. 発表標題 鎖と 鎖が共に陽性のPGNMIDの1例.
3. 学会等名 第49回日本腎臓学会東部会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 酒井 敬史, 山田 宗治, 小島 亜希, 小松 秀平, 大島 泰斗, 小島 糾, 杉崎 健太郎, 富安 朋宏, 吉川 憲子, 尾田 高志.
2. 発表標題 典型的な電顕所見を示すIV型コラーゲン 5鎖(COL4A5)染色陽性の男性アルポート症候群2症例.
3. 学会等名 第49回日本腎臓学会東部会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 武政 洋一, 藤永 周一郎, 遠藤 翔太, 梅田 千里, 西野 智彦, 渡邊 佳孝, 仲川 真由, 尾田 高志.
2. 発表標題 マイコプラズマ肺炎を合併した重症感染後糸球体腎炎の6歳男児.
3. 学会等名 第49回日本腎臓学会東部会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 井上 暖, 廣瀬 剛, 杉崎 健太郎, 山田 宗治, 吉川 憲子, 尾田 高志.
2. 発表標題 溶連菌感染後急性糸球体腎炎(PSAGN)に直接クームス試験一過性陽性化を伴う血栓性微小血管症(TMA)を合併した一例.
3. 学会等名 第49回日本腎臓学会東部会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 尾田 高志.
2. 発表標題 溶連菌感染後急性糸球体腎炎.
3. 学会等名 第49回日本腎臓学会東部会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 尾田 高志, 井上 暖, 酒井 敬史, 小島 亜希, 木原 優, 今野 理, 山田 宗治, 吉川 憲子, 岩本 整.
2. 発表標題 腎移植患者におけるヒトパルボウイルスB19(HPVB19)遷延感染の2症例.
3. 学会等名 第64回日本透析医学会総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉川 憲子, 小島 糾, 廣瀬 剛, 小松 秀平, 大島 泰斗, 小島 亜紀, 山田 宗治, 尾田 高志, 進藤 俊哉.
2. 発表標題 当院における下肢末梢動脈疾患(PAD)紹介患者の変動.
3. 学会等名 第64回日本透析医学会総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 菅野 靖司, 角田 隆俊, 小俣 百代, 山川 弘, 佐藤 雄一, 齋藤 毅, 吉川 憲子, 尾田 高志.
2. 発表標題 Dialysis-Net 802(八王子医療圏透析連携の会)ホームページ制作.
3. 学会等名 第64回日本透析医学会総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 花房 規男, 菊地 勸, 川崎 路浩, 酒井 謙, 杉崎 弘章, 小川 哲也, 尾田 高志, 要 伸也, 田島 真人, 本田 浩一, 大坪 茂, 岡本 裕美, 安部 貴之, 今井 早良, 上田 聡美, 松田 由美子, 吉盛 友子, 安藤 亮一.
2. 発表標題 東京都の災害対策医療の現状 東京都透析医会災害対策委員会の取り組み.
3. 学会等名 第64回日本透析医学会総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 尾田 高志, 岩間 さち子, 小島 糾, 杉崎 健太郎, 吉川 憲子, 山田 宗治, 吉澤 信行, 浅野 貴子, 熊谷 裕生.
2. 発表標題 NAP1r陽性腎炎の最終診断名および臨床・組織学的特徴.
3. 学会等名 第62回 日本腎臓学会総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山田 宗治, 酒井 敬史, 小島 亜希, 井上 暖, 小松 秀平, 大島 泰斗, 廣瀬 剛, 小島 糾, 杉崎 健太郎, 富安 朋宏, 吉川 憲子, 尾田 高志.
2. 発表標題 ラット線維芽細胞におけるepimorphinの線維化保護作用.
3. 学会等名 第62回 日本腎臓学会総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松村 千恵子, 菅谷 雅人, 升田 真依, 小林 雅代, 鶴野 裕一, 金本 勝義, 北村 博司, 澤井 俊宏, 奥田 雄介, 才田 謙, 野津 寛大, 尾田 高志.
2. 発表標題 溶連菌感染契機に発症し、ステロイド剤とタクロリムス併用が著効を呈したC3NeF陽性C3腎炎の1例.
3. 学会等名 第54回 日本小児腎臓学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 井上 暖, 小島 糾, 岩間 佐智子, 杉崎 健太郎, 富安 朋宏, 吉川 憲子, 山田 宗治, 尾田 高志
2. 発表標題 ANCA関連腎炎における糸球体への補体沈着と臨床・組織所見との関連性.
3. 学会等名 第61回日本腎臓学会学術総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山田 宗治, 恩藏 真弥, 小島 亜希, 井上 暖, 小松 秀平, 大島 泰斗, 廣瀬 剛, 小島 糾, 杉崎 健太郎, 富安 朋宏, 吉川 憲子, 尾田 高志
2. 発表標題 培養ラット尿細管細胞におけるエピモルフィンの作用の検討.
3. 学会等名 第61回日本腎臓学会学術総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉川 憲子, 富安 朋宏, 小島 糾, 廣瀬 剛, 大島 泰斗, 小松 秀平, 井上 暖, 小島 亜紀, 山田 宗治, 尾田 高志
2. 発表標題 PD患者の骨格筋指数(SMI)・体脂肪率の経時的変化.
3. 学会等名 第63回 日本透析医学会学術総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山田 宗治, 恩藏 真弥, 小島 亜希, 井上 暖, 小松 秀平, 大島 泰斗, 廣瀬 剛, 小島 糾, 杉崎 健太郎, 富安 朋宏, 吉川 憲子, 尾田 高志
2. 発表標題 マウス腹膜線維化修復モデルにおけるepimorphinの関与.
3. 学会等名 第63回 日本透析医学会学術総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 尾田 高志, 平野 大志, 中南 秀将, 伊保谷 恵子, 山田 宗治, 野口 雅久
2. 発表標題 非溶連菌性の感染関連糸球体腎炎(IRGN)におけるnephritis-associated plasmin receptor(NAP1r)、plasmin活性の意義
3. 学会等名 日本内科学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 尾田 高志, 平野 大志, 岩間 佐智子, 小島 糾, 杉崎 健太郎, 富安 朋宏, 吉川 憲子, 山田 宗治, 井田 博幸
2. 発表標題 マイコプラズマGAPDHはplasminとの結合活性があり感染関連糸球体腎炎(IRGN)に関与する
3. 学会等名 日本腎臓学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 尾田 高志, 岩間 佐智子, 藤井 理恵, 小松 秀平, 大島 泰斗, 廣瀬 剛, 山上 和夫, 吉澤 信行, 熊谷 裕生
2. 発表標題 Nephritis-associated plasmin receptor(NAP1r)ペプチドを用いた血清抗NAP1r抗体測定系の確立
3. 学会等名 日本腎臓学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 尾田 高志, 小島 糾, 杉崎 健太郎, 富安 朋宏, 吉川 憲子, 山田 宗治
2. 発表標題 感染関連糸球体腎炎に関する最近の知見
3. 学会等名 日本腎臓学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中林 巖, 富安 朋宏, 川上 幸治, 尾田 高志
2. 発表標題 慢性腎臓病における排便習慣と腎機能低下に関する検討
3. 学会等名 日本腎臓学会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 尾田高志, 吉澤信行	4. 発行年 2019年
2. 出版社 日本メディカルセンター	5. 総ページ数 430
3. 書名 抗ストレプトリジンO (ASO), 抗ストレプトキナーゼ (ASK). 透析患者の検査値の読み方 第4版	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山田 宗治 (Yamada Muneharu) (10625164)	東京医科大学・医学部・准教授 (32645)	
研究分担者	小野 聡 (Ono Satoshi) (30531355)	東京医科大学・医学部・兼任教授 (32645)	
研究分担者	熊谷 裕生 (Kumagai Hiroo) (50170048)	防衛医科大学校(医学教育部医学科進学課程及び専門課程、動物実験施設、共同利用研究施設、病院並びに防衛・内科学・教授 (82406)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	大澤 勲 (Ohsawa Isao) (60407252)	順天堂大学・医学部・非常勤講師 (32620)	
研究分担者	村越 貴子（浅野貴子） (Murakoshi Takako) (70573666)	防衛医科大学校（医学教育部医学科進学課程及び専門課程、動物実験施設、共同利用研究施設、病院並びに防衛・病院小児科・助教 (82406)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関